

総務建設委員会視察研修報告

○日 時 令和元年7月8日（月）～7月10日（水）

○研修先 ・滋賀県 守山市

【「ビワイチ」によるサイクルツーリズムを推進する事業について】

・京都府 舞鶴市 【クルーズ客船誘致・受け入れと観光振興について】

・京都府 宮津市 【観光振興の取り組みについて】

・京都府 福知山市

【大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会の取り組みについて】

総務建設委員会では、「牧之原市の活性化と観光について」をテーマとして調査・研究を進めており、今後の市への提言の参考とするため先進事例の視察を実施した。

○滋賀県 守山市「ビワイチによるサイクルツーリズムを推進する事業について」

滋賀県の南西部に位置する守山市は、「自転車を活用したまちづくり」を推進しており、自転車を軸とした観光振興を目指した取組みを行っている。

琵琶湖は、四季折々の自然と平坦でほとんど高低差がないことから、サイクリストの聖地であるしまなみ海道に学び、「ビワイチの起点の守山市」しての様々な取組みをスタートさせていた。

世界最大の自転車メーカーへの営業活動などにより、世界各地で宿泊施設の運営を手がけるホテルの中に店舗がオープンしたことや、地理的に関西圏や中京圏にも近距離であること等も追い風となっているとのことだった。

○京都府 舞鶴市「クルーズ客船誘致・受け入れと観光振興について」

舞鶴市は、近年、京都舞鶴港へのクルーズ客船の寄港回数が大幅に増加していることから、誘致活動や乗客の受け入れ等について先進事例を学んだ。

日本海に面し、経済成長著しい中国にも近いことから、地理的にも恵まれた環境にあると言えるが、市長自らがイタリアなどへトップセールスに出向くだけでなく、担当職員が業務に精通し、内外に幅広いパイプを築いていることも強みの一つではないかと感じた。舞鶴市としては、この好機を地元活性化につながる絶好の好機と捉え、市民意識やおもてなし意識の醸成だけでなく、周辺自治体との

連携を模索していた。

クルーズ客船の誘致は、セールス活動が成果として即座に現れることは皆無であり、数年先を見据えた地道な活動が将来の寄港に結び付くということであるため、戦略性を持って粘り強い取組が必要となるのではないかと感じた。

○京都府 宮津市「観光振興の取組みについて」

日本三景の一つであり、年間 300 万人の観光客が訪れると言われている天橋立を有する宮津市であるが、来訪する観光客が地元で経済効果をもたらさない状況であったことから、まちづくり施策の一環として観光革命と銘打った取組を進めているところである。

観光客の多くは日帰りや近郊の温泉地へと流れてしまう傾向があり、観光商品も市外の業者の製造であることから地元経済への循環の仕組みができておらず、地元へ恩恵が少ないということだった。

○京都府 福知山市「大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会の取組みについて」

来年の大河ドラマの主人公に決定した明智光秀に関係する京都府北部の市町で構成する推進協議会は、平成 23 年度から地道で継続な活動を行い、大河ドラマ誘致活動を行ってきた経緯がある。また、決定後は、様々なPR活動に注力し、担当職員の熱意とアイデアにより、市民を巻き込むための様々な仕掛けを行っていた。



総務建設委員会では、今回の視察や市内各種団体との意見交換を参考に、これから委員会の活動及び政策提言に活かしていきます。